

上田仮説サークルニュース	7月例会	2016.07号
編集責任	遠藤 裕	発行2016.8.27
〒383-0041 中野市岩船426-3 サカガーデン中野 B-G TEL 0269-23-2847 携帯 090-1406-9115		
メール endo-h@cronos.ocn.ne.jp 勤務先 長野工業高校 TEL 026-227-8555		

7月16日(土) 上田中央公民館 3F第1・第2会議室
午後3:00～8:30



参加者数7名
資料総ページ55ペ

<参加者> 柳沢克央さん, 増田伸夫さん, 池田みち子さん, 渡辺規夫さん,
高見沢一男さん, 北村知子さん, 遠藤裕

はじめに 7月例会の参加者は7名。

発表は, 柳沢さんから1本, 増田さんから4本, 渡辺さんから1本の合計6本の発表がありました。

柳沢さんは「読書メモ」で7冊の本を紹介。自分でも読んでみたくなる感想・解説があります。

増田さんは<今月のお話>3本(牧さん1本, 渡辺さん2本)とミニ問題集<3つの一神教>。牧さんのお話は, 「管理」というイメージを一新してくれます。渡辺さんのお話は, 「仮説実験的認識論」にもとづく運動のお話です。

渡辺さんは, 「牧衷さんの談話 2015年夏の大会」の紹介。先月の発表レポートのもとになる原稿です。牧さんの息遣いがなんとなく伝わってきます。

渡辺さんは「U演奏家協会 第2回講演 そんねんまくコンサート」のパンフレットを持ってきてくれました(7/17 15時開演)。じつは, 娘さんの渡辺夏子さん(トロンボーン)が出演するとのこと。渡辺さんはどちらかという理論的な方ですが, 娘さんは芸術家なんですね。ドイツ留学から戻られ, 日本に活動拠点を移されたとのこと。サークルでもご活躍を応援しております。

終了後は, 丸勝で夕食会。夕食には北村秀夫さんが参加。

<お知らせ>

8月例会は, 田中さん, 渡辺さんの提案により, 「暑気払い」を計画しました。

<暑気払いのご案内>

日時: **8月27日(土)午後6:30~** (例会終了後)
会費: **3600円** (2時間飲み放題)
会場: **「いろはにほへと 上田店」**
上田市天神2-4-80
(平安堂上田店隣り、JR上田駅より車で3分)
申込み: **8月24日(水)までに遠藤** (携帯またはメールアドレス) **までご連絡下さい。**
携帯 090-1406-9115
メール endo-h@cronos.ocn.ne.jp

1. 発表資料

① サークルニュース 6月例会 遠藤 裕 (9ペ)

1. 発表資料

- ① サークルニュース 5月例会 遠藤 裕 (6ペ)
- ② <今月の書評(本の紹介)10> 地政学的視点も加味して現代を考える本
増田伸夫さん(16ペ)
- ③ <牧:今月のお話6> 貨幣経済と四民平等 増田伸夫さん(8ペ)
ーお金は民主主義の始まりー
- ④ <牧:今月のお話7> 時代は何を軸として回っているか 増田伸夫さん(8ペ)
ー歴史/現代を見る目ー
- ⑤ 信毎記事の紹介 柳沢克央さん(1ペ)
最後の防波堤破る安保法制 戦後日本の問題の核心は
- ⑥ 確率論の授業で実験を取り入れる試み 渡辺規夫さん(10ペ)
- ⑦ シャルリー・エブド社襲撃事件をどうとらえるか 渡辺規夫さん(10ペ)
2015年夏の大会での牧衷さんの談話の紹介。
- ⑧ 紹介:『研究会ニュース』は何のためにあるのか? 渡辺規夫さん(2ペ)
- ⑨ <<燃焼>>を終えて 北村知子さん(6ペ)

② 読書メモ2016年6・7月 - 『イノベーションと企業家精神』ほか -

柳沢克央さん(6ペ)

柳沢さんが6月, 7月に読んだ本の読書記録, 読書メモの紹介。

◇はじめに

前回の「読書メモ」と同様, サークルで発表することを目的とすると, 読書がはかどるので, このメモを作成することにしました。自身のため, 記録を残すことが第一目的です。みなさま, よろしく(適当に)おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり, 引用あり, 要約あり, 感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。

(私物)と書き添えてあるもの以外はすべて篠ノ井高校図書室蔵書。

◇読書記録または読書メモ(順不同)

- ◎ D・カーネギー『人を動かす』(創元社・2016年・文庫版)
- ◎ ミシェル・ファインマン編・大貫昌子訳『ファインマン語録』(岩波書店・2016年)
- ◎ P.F.ドラッガー著・上田惇生編訳『【エッセンシャル版】イノベーションと企業家精神』(ダイヤモンド社・2015年)(私物)

- ◎池上彰著『高校生からわかる「資本論」』（発行：ホーム社,発売：集英社・2009年）
（私物）
- ◎福田ますみ著『モンスターマザー・長野・丸子実業「いじめ自殺事件」教師たちの戦い』（新潮社・2016年）
- ◎田中森一著『反転－闇社会の守護神と呼ばれて－』（幻冬舎アウトロー文庫・2007年）（私物）
- ◎ジョージ・オーウェル著・小野寺健訳『オーウェル評論集』（岩波文庫・1982年）（私物）

◇まとめ

今回は大規模な要約は作成せず、あっさりとした読書メモになった。

池上彰著『高校生からわかる「資本論」』（ホーム社・集英社）による『資本論』の「解説」でも十分にホネがあり、本編には手が出そうもない。ただし、気持ちとしては『資本論』に対するある種の「偏見」がなくなったので、純粋に学問的な面から興味が湧いてきたとは言える。以上

（柳沢さんは7冊の本を紹介してくれていますが、人間関係、思想、技術、経済、教育、社会、評論など多岐にわたっています。私は本を買うとき、本屋さんで少し立ち読みをしてから買うかどうか決めることが多いのですが、柳沢さんの本の紹介は購入するとき大いに参考になります。とはいっても積ん読が多いのですが。 エンドゥリ）

③ <牧：今月のお話8> 本物の経営管理 増田伸夫さん（8ペ） －企業は人を大事にする－

上田仮説出版『牧衷講座記録集Ⅷ 一人間関係論と仮説実験授業－』「企業管理者から見た学校の現状とこれから」より 2003/7/5 中信地区高校教育研究会 総会 松本市勤労会館にて テープ起こし：北村秀夫氏&渡辺規夫氏 編集：渡辺規夫氏 再編集・文責：増田

- ◇企業は人を大事にする
- ◇ひどい経営と本物の経営管理
- ◇結果がきちんと判定できないことは目標にしない
- ◇だめな管理①－数値目標を与えて尻をたたく
- ◇だめな管理②－過大な数値目標を掲げる
- ◇達成できる数値目標を立てる
- ◇目標設定の手順
- ◇管理は働く人にやる気を起こさせる手段

増田さんの<あとがき>より

企業の経営管理は世間一般のイメージとは違って、人間をかなり大事にしているようです。本来、＜管理は働く人にやる気を起こさせるための手段＞なんですね。(増田)

(学校現場にいと、「管理」というと締め付けられるというマイナスのイメージを持ってしまいます。企業の＜経営管理＞を＜学校経営＞に取り入れると聞いただけで、拒否反応を持つ人も多いと思います。牧さんの「管理は働く人にやる気を起こさせる手段なんです」という話を読んで、そうだったのかと認識を新たにしました。先入観を改めていくには、いろいろなことを学び続けていく以外にないなと思います。 エトダリ)

④ <渡辺：今月のお話1> 仮説実験的認識論にもとづく運動 増田伸夫さん(8ペ)

－牧衷運動論に学ぶ－

<仮説実験的認識と平和>リレー講演会 渡辺規夫「仮説実験的認識論」より
2015/6/6 瀬戸市文化センターにて テープ起こし・編集：増田伸夫

- ◇砂川基地拡張反対闘争
- ◇牧さんの立てた方針は？
- ◇牧衷方針の実験結果
- ◇「測量一時延期」の決定に対してどうするか
- ◇美浜原発2号機の稼働差し止め運動(関君の運動)
- ◇「説明会」というタイトルの「討論会」
- ◇相手の立場に立って考える

増田さんの<あとがき>より

授業も運動ですから、どうしたら勝利できるか(授業の目的を達成できるか)を考えながら、私たちも日々の授業に取り組んでいるわけですが、仮説実験授業を行うといとも簡単に勝利できてしまいます。それは仮説実験授業がまさしく仮説実験的認識論にもとづいて作られ、その運動が仮説実験的に進められているからなのでしょう。(増田)

(運動をするとき、<相手の立場に立ってものを考えろ>。相手の立場に立って考えると、相手の気持ちがよくわかり、<どうすれば勝てるか>もよくわかる。人間関係を考えていくときも応用できそうです。 エトダリ)

⑤ <渡辺：今月のお話3> 大敗北から退却を学ぶ 増田伸夫さん(8ペ)

－「あきらめの教育学」と「上手な負け方」－

<仮説実験的認識と平和>リレー講演会 渡辺規夫「仮説実験的認識論」より
2015/6/6 瀬戸市文化センターにて テープ起こし・編集：増田伸夫

- ◇「授業料値上げ反対闘争」
- ◇「レットページ反対闘争」
- ◇「追試通告」に対してどうしたか
- ◇大敗北から退却を学ぶ（あきらめの教育学）

増田さんの〈あとがき〉より

板倉さんの「あきらめの教育学」は、学生運動で大敗北を喫し、そこで退却の重要性を学んだことから発していたのか。そして牧さんの「上手な負け方」もそうだったのか。「なるほど」と納得するお話ばかりです。（『今月のお話3』の「牧10：上手な負け方（撤退の秘訣）」も併せてお読みいただくとよいと思います）

（増田）

（板倉さんの「あきらめの教育学」。人間って〈被害を大きく受ける前に引く〉ということが下手なようです。というより、当事者になると退却する時期をうまく判断できなくなるのかもしれない。板倉さんも牧さんも学生運動のでの大敗北から退却することの重要性を学んでいたようです。エトワリ）

⑥ ミニ問題集〈3つの一神教〉—ユダヤ教, キリスト教, イスラム教—

増田伸夫さん（12ペ）

〈3つの一神教〉を学ぶための問題集。

いま世界で起こっている出来事を理解するためには、どうしても宗教に対する理解が欠かせない。なかでも、一神教（ユダヤ教, キリスト教, イスラム教）に対する理解が重要だと思った。しかし私にはそれらに対する基礎知識がまったく欠けていると感じた。そこで、「私にどんな基礎知識が備わったら世界で起こっている出来事を少しでも理解できるようになるのか」という観点から、〈3つの一神教〉に関するミニ問題集を作ってみました。皆さんも気楽におつきあいください。

0. 3つの一神教

- ◇最も新しい宗教は？ 【問題1】
- ◇3つの一神教の共通点と相違点 【問題2】【問題3】

1. ユダヤ教とユダヤ人

- ◇「ユダヤ人」とは？ 【問題4】
- ◇ユダヤ教の教え 【問題5】
- ◇ユダヤ教の唯一神ヤハウエ 【問題6】
- ◇ノーベル賞とユダヤ人 【問題7】
- ◇ハリウッドとユダヤ人 【問題8】

2. キリスト教とヨーロッパ

- ◇イエスは何教徒だった？ 【問題9】

- ◇ユダヤ人迫害の原因は？ 【問題 10】
- ◇イエスはなぜユダヤ人の怒りを買ったのか？ 【問題 11】
- ◇「十字軍」と中東イスラム世界 【問題 12】
- ◇アメリカ大統領と宗派 【問題 13】
- ◇EUとトルコ，ロシア 【問題 14】
- ◇フランスと政教分離 【問題 15】

(宗教と政治の関係を学んでいくための入門となる<ミニ授業書>です。 エンドウ)

⑦ 牧衷さんの談話 2015年夏の大会 渡辺規夫さん (4ペ)

6月例会で渡辺さんが発表した「シャルリー・エブド社襲撃事件をどうとらえるか」のもとになる原稿の紹介。

6月例会で発表された資料は、小見出しがつけられ非常に読みやすくなっていますが、そのもとになる原稿。この牧さんの談話のきっかけは<板倉さんの『たのしい授業』2015年4月号の記事>です。キーワードは「寛容」という言葉ですが、牧さんは「寛容の精神ではなく寛容のルールじゃなければだめなんです」といっています。それにしても、喫煙室での談話ですが、短い時間の間によくこれだけのお話をされたと驚くばかりで、非常に奥の深い内容です。これからの社会情勢を自分なりに分析していくために非常に参考になるお話です。このレポートは、牧さん息遣いが伝わってくるような気がします。

板倉さんの『たのしい授業』2015年4月号の記事について
聞き手 渡辺規夫 増田伸夫
仮説実験授業研究会東京大会会場 ホクトピア 喫煙室にて
テープ起こし 文責 渡辺規夫

(現在、中東で起きている問題や日本での憲法改正問題を考える上で、大きな示唆を与えてくれる談話です。 エンドウ)

あとがき 8月も終わりに近づきましたが、まだまだ暑さが続いています。学校では、教室の温度が32°にもなっている中での授業です。

高校現場では、9月5日の就職願書受付に向けて校内での調整に追われています。長工では就職希望者は150名近く。第一希望の企業に合格できることを祈っています。

(エンドウ)

★ 今後の予定 ★
9月24日(土)
10月22日(土)
11月26日(土)